

2021/4/19

(うとQ世話し 開き直る。その後、合わせ技、で一本)

「物言えば唇寒し秋の風」

という訳で、余計なことは言わないでおこう。

となり、余計な事どころか、必要なことまで言わなくなり、果ては

「見ざる、言わざる、聞かざる」

を決め込み、そのくせ反対に

「何も見ないし、言わないし、聞かないことにしている」けれど、そこはそれ、要するに何もこちらからは発信しないけれど「以心伝心」で、あなた方は私の胸の内をちゃんとわかっていて、然るべき、よね(だろ)」

になっていませんかでしょうか。

はたまた、

「出る釘は打たれる」

という訳で、

「正しいか正しくないか、ではなく、みんなと同じかどうか？」

が最優先されていませんかでしょうか？

何よりも怖いのが、目立って後ろ指をさされ、仲間外れになる事。

それで、横一線の横並び。ちょっとした差異で、袋叩きの超強力同調圧力をかけていませんかでしょうか？或いはかけられておりませんかでしょうか？

そうして本日最後は

「赤ちゃんは、王様」

という訳で、

生まれた時が最高得点。

後は年を追うごとにどんどん失点、劣化していく、という考え方。

どこにも経験の年輪とか、年を経て熟す、という価値観がまるで失われてしまっている。

その結果、若い人は

「大人になりたくない」

になり、年配者は

「若ぶる」か「若い人のご機嫌伺をし、人気取りに励む」

ようになってしまった。

そうしてお互い、

「鵜の目鷹の目」

で、あたりの様子を探り、恐る恐る

「息を殺して」気配を悟られぬよう「抜き足差し足忍び足」で暮らす

「相互監視岩盤社会」

になってしまっているのが、コロナ禍以前から既にあった今の我が国の実態。

敵は城外に在らず。城内に密偵冠者として、在り。

何よりも怖いのは、今般のコロナより、歴代以前から厳然として在る「我が同朋の目線」こそ。

これではいくら何でも、疲れますでしょう（ずっと疲れていたでしょう）

なので、そのカタルシス（精神浄化）として、敢えて今だからこそ、申し上げたいのは、「どうせ、人生一回限り。どのみち、なるようにしかならんわ（ケセラセラ）ええい、ままよ」

とばかりに、一旦開き直り

「人目を気にせず思っている事をはっきりと言わせてもらう。言った以上は自分が責任を取る」

とまずは、大見栄を切る。

そうして何か言われれば

「出物腫れ物所嫌わず。一寸の虫にも五分の魂。もう自分（あたし）も、かれこれ20年以上、それなりの年月、生きているんだから、そのくらい言わせてもらっても、いいんでないの（でしょうに）んっ？」

間違っていたら、後でゴメンナサイするから、ねっ？

各々方（おのおのがた）」

という具合に、開き直りの上に立って、同調圧力を茶化し、ひらりと交わしてスルーしてみせる。

そういった硬軟取り混ぜた。

こころのC 難度柔術（柔らかい術）

「柔よく剛を制す」ではありませんが

あの手この手の

「合わせ技で一本、精神」

が、今だからこそ必要なのではないのでしょうか？

という事でございます。